

豊川圏域大規模氾濫減災総合サミット

議事概要

日時：平成30年5月9日（水）16：00～17：45

場所：豊橋市役所 13階 講堂

■議題

1. 【全体】

- 1) 豊川水防災サミット、豊川圏域水防災協議会、豊川及び豊川放水路洪水予報連絡会、豊川水防連絡会の合同開催について
- 2) 平成29年度 気象概況 <名古屋地方気象台>
- 3) 平成29年度 出水概要 <豊橋河川事務所>

2. 【豊川水防災サミット】<豊橋河川事務所>

- 1) 豊川水防災サミット 規約、取組方針の改訂について
- 2) 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく豊川の減災に係る取組方針のフォローアップについて

3. 【豊川及び豊川放水路洪水予報連絡会】・【豊川水防連絡会】<豊橋河川事務所>

- 1) 平成29年度 事業報告、平成30年度 事業計画（案）について
- 2) 連絡会規約及び役員名簿について
- 3) 重要水防箇所の変更箇所について

4. 【豊川圏域水防災協議会】<愛知県>

- 1) 出水期前の体制確認について
- 2) 取組方針フォローアップについて
- 3) 水害対応タイムライン（案）について
- 4) その他情報提供、今後のスケジュールについて

【協議結果】

本会の合同会議の名称、会議の運営要領を確認し、了承を得た。

【豊川水防災サミットについて】

規約、取組方針の改訂を確認し、了承を得た。

豊橋市より、災害対策本部設置運営訓練及び出水時のドローン飛行隊の派遣について説明がなされた。

豊川市より、昨年度作成した洪水ハザードマップ及びタイムライン等の新たな運用について説明がなされた。

【豊川及び豊川放水路洪水予報連絡会・豊川水防連絡会について】

事業報告、今年度の事業計画案並びに規約と役員名簿の変更、あわせて、重要水防箇所の変更を説明し、了承を得た。

【豊川圏域水防災協議会について】

出水期前の体制確認と取組方針のフォローアップについて、各構成員と情報共有を行った。

水害対応タイムライン（案）について、各構成員の了承を得て、本出水期から運用する。

【全体質疑】

本会の内容を受けて、委員の方からご意見を頂いた。以下にその概要を記載する。

<蒲郡市>

- ① 近年、予想を超える自然災害が全国各地で発生して、多くのとうとい人命が奪われている現状で、いつどこで発生するかわからない災害に備えて国、県及び市町村が一体となって取り組む姿勢は、災害に強いまちづくりにつながるため、大変重要な会である。
- ② 蒲郡市は直接豊川に関係するまちではないが、豊川の恩恵を受けるまちとして一緒になって活動していかなければいけないと思っている。蒲郡市内にも県管理河川や普通河川等があり、いろんな情報を共有しながら河川の氾濫等に備えていければと考えている。
- ③ 危機管理型水位計の設置を参考に、蒲郡市でもそういった管理体制を充実したい。

<田原市>

- ① 田原市では、昭和 37 年、41 年に非常に大きな集中豪雨があり、昭和 41 年の集中豪雨では死者も出た。また、10 年前には高潮が重なった汐川の氾濫も発生した。
- ② 田原市は直接豊川に関係するわけではないが、国、県、そして、各市町村が一体となって減災に励んでいくことは大変重要なことである。

<新城市>

- ① 本市は石田地点から上流と下流で、国と県の管轄が分かれていることを何度か話してきたが、新しく全体の体制ができ上がったことに感謝申し上げる。
- ② 4月25日の大雨では、豊橋河川事務所から事務レベルで豊川の水位予測情報を提供いただき、樋門ゲート操作等への判断材料となり、大変助かった。
- ③ 水位のピーク時間がおおよそ分かることで、現場で待機している操作員や市職員、水防団に心理的な余裕・備えができた。
- ④ 新城市では、豊川の樋門操作には地元の皆様が関わっているので、操作には安全確保を第一に考えていきたい。その上で情報提供体制が順次密になってきたことに感謝し、これからも充実させていきたい。
- ⑤ 本市は洪水ハザードマップを平成31年度に策定予定としている。

<豊川市>

- ① 国土交通省による金沢霞、賀茂霞、金沢橋付近への河川監視カメラの設置や樹木の伐採、防災情報ポータルサイトの開発など、ソフト対策の充実に感謝する。
- ② 4月の大雨では霞地区の金沢、三上地区の一部の農地が冠水するなど、近年の異常気象で市民は不安を抱えながら生活をしているだけでなく、周辺の企業活動にも影響を及ぼしているため、冠水時には、市だけでなく、河川管理者である国や県の協力体制がしっかりとられることが河川氾濫から住民を守るためにとても大切であると考えている。今後も災害時における対応の強化、減災に係る取組を着実に進めていきたい。
- ③ 豊川市では、ハザードマップの作成、ドローン航空隊の設立、出前講座などを実施しており、本年度は防災センターの建設、情報伝達システムの見直し、浸水表示板の設置など、防災強化の充実に図っていく。取組方針に基づき対策できるよう協力、連携していきたい。
- ④ 来年は、昭和44年8月に発生した江島地区での豊川の破堤から50年という節目の年である。本市における最大規模の災害であり、その記憶が風化しないよう記録として残していただくようお願いしたい。

<豊橋市>

- ① いろいろな機関とさまざまな情報を共有できる機会は重要であり、このような場ができたことを嬉しく思う。また、災害が起きる度、中部地方整備局、陸上自衛隊の方に駆けつけて頂き、感謝申し上げます。
- ② 今後は、水位計や映像等の河川の様々な情報が入ってくるため、早目早目に手を打

ち、タイムラインに沿って段取りを組み、より周到に備えていきたい。

- ③ 4月の大雨ではドローンを活用して得た情報は、上手く使えば非常に有効なものであると感じた。単に動画の撮影だけではなく、情報共有を新たにすることができる。全然違う分野だが、海で溺れた人の救助訓練として、ドローンを使って浮き輪を投下していた。河川でも、いろんな水防訓練でいろんな道具を使って救助するが、こうした場面でドローンが有効である。ただ、我々が持っている機材では能力が不足するので、こういった機材をこれから備えていくのか、市町村が備えるのか、中部地整にお願いするのか、これから十分に検討したい。
- ④ 本市はエリアメールという形でプッシュ型の情報提供の訓練を行う。

以上